中日新聞　2019年（令和元年）8月8日（木曜日）

伊勢湾台風 熱演で伝える

来月ミュージカル出演 弥富北中生ら初稽古

一九五九（昭和三十四）年の発生から六十年を迎える伊勢湾台風を題材にしたミュージカル「空が落ちてきた日。」の弥富市と飛島村の公演に、同市弥富北中学校のダンス部が出演する。今月四日には、振付師から指導を受ける初稽古が市総合社会教育センターであった。

（大野雄一郎）

「もっと大きく、荒々しい表現で体を動かして！」

振付師の志乃舞優さん（五〇）の厳しい声が飛ぶ。体操服姿の部員たちが、足を上げたり、腕を大きくうねらせたりして濁流の様子を表現。せりふや曲に合わせて動きのタイミングを確認するレッスンが続いた。

一～三年の部員二十二人の役柄は「水の精」。劇中ではバックダンサーのような立ち位置で、穏やかだった水が暴れだしたり、時には死者の亡霊に変容したりする様子を演じる。出演時間は計十五分。部長の三年、天木星来さん（一五）は「人々が苦しむ場面と、希望を持つ場面では表現の仕方が違う。メリハリを付けて演じたい」と気合を入れる。

ミュージカルは、市広報大使で劇作家のやとみまたはちさん（五三）が、主宰する劇団アルクシアターや県内有志と一緒に手掛ける。海沿いの干拓地に来た農家や被災現場で活躍した医師、疎開先の小学生など、さまざまな立場から伊勢湾台風を捉えた物語だ。

地元の中学生が出演することに、やとみさんは「災害のことを何となく知っているのと、自分で演じて実際に表現するのは全然違う。演技を通して地元の大災害を学んでほしい」と願う。ダンス部顧問の須古井京子教諭（六〇）も「かっこいいだけのダンスでは悲しみや苦しみは伝わらない。一つ一つの動きに意味を見いだし、心を込めることが必要になってくる」と話す。

ダンス部は本番までに計四回、役者たちとの合同練習に臨むが、現在は別のコンクールの出演準備も並行しており、多忙な日々が続いている。それでも須古井さんは「部員たちには妥協せず頑張れる意識の高さがあり、信頼している」と舞台の成功を信じている。

弥富市公演は九月二十二日に同センターで午前、午後の二回上演する。市内在住、在勤、在学者限定で、八月十六日まで観覧申し込みを受け付けている。

飛島村公演は九月二十九日午前十一時から村中央公民館で上演。在住、在勤者は七日に申し込みが始まった。先着順で、チケットが余った場合のみ、九月二日から一般の申し込みも受け付ける。

いずれも観覧無料。問弥富市秘書広報課＝0567（65）1111、飛島村総務課＝0567（97）3461

志乃舞さん㊧から振り付けを教わる弥富北中のダンス部員たち＝弥富市総合社会教育センターで

令和元年８月８日（木）中日新聞　朝刊　尾張版に掲載